

## ジオキャラバン：山陰海岸ジオパークにおける博物館と連携したアウトリーチプログラム

### Geo-Caravan : Outreach Programs by the Museum in the San-in Kaigan Geopark

先山 徹<sup>1\*</sup>, 松原 典孝<sup>2</sup>

SAKIYAMA, Tohru<sup>1\*</sup>, MATSUBARA, Noritaka<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 兵庫県立人と自然の博物館, <sup>2</sup> 山陰海岸ジオパーク推進協議会事務局

<sup>1</sup>Museum of Nature and Human Activities, Hyogo, <sup>2</sup>Secretariat of San-in Kaigan Geopark Promotion Council

山陰海岸ジオパークは、3府県にまたがる3市3町からなる広範囲なジオパークである。そのため多くの施設があり、そこを拠点として活動するグループが多く存在する。これらのグループが活発にガイド活動を行い、ジオパーク活動を推進していくためにはそれぞれの施設の活性化が不可欠である。しかし多くの施設は小規模であり、専門的職員が常駐していないなどにより、施設単独の学習活動がかならずしも活発に進められているわけではない。そのため、学芸員や研究員などの専門職員が存在し、生涯学習のノウハウを持った博物館がジオパーク活動に関わっていくことが期待される。その一方で、地域がひとつのジオパークとしてまとまった学習活動を実施していくためには、各施設が連携していきながら、活発な学習活動を推進していくことが必要である。

兵庫県立人と自然の博物館は、さまざまな形で山陰海岸ジオパークの生涯学習活動を支援してきているが、そのなかで“ジオキャラバン”と称するアウトリーチ活動を実施している。ジオキャラバンは、展示・セミナー・イベントを主体とするもので、2011年度はジオパーク内の6施設を各3~4週間で巡回した。多くの博物館で実施されるアウトリーチプログラムに“移動博物館”や“巡回展”などと称されるものがあるが、それらと“ジオキャラバン”が異なる点は、博物館が一方的に実施するのではなく、各施設のスタッフ、そこで活動しているグループ、地域の行政、ジオパーク推進協議会などに人と自然の博物館の研究員が加わったメンバーで実施時期・場所・メニューなどを考え、計画・実行していく点である。主体は地域の人たちであり、博物館はそれをサポートする形を理想とする。

展示物は人と自然の博物館によって移動可能なように作られたものを基本に、地域の人たちによる展示が加えられる。そこでは、各施設や活動グループの状況や意向により、講義・ワークショップ・シンポジウム・野外観察・体験イベントなどから音楽やダンスまで、多様な催しが繰り広げられる。

このようなキャラバンを実施することにより、以下の効果が期待される。

- ・参加者がジオパーク地域の自然や歴史・文化などへの関心を高める。
- ・地域の人たちの活動の場が創出される。
- ・ジオパークにおける隠れた人材を発掘する。
- ・一緒に計画をすることで、各施設をよりどころとする人たちの連携が高まる。
- ・年間を通じた活動によって、施設間・グループ間の仲間意識を高める。

さらに、今後は各施設やグループが自主的に実施していくことが可能になれば、各施設やグループの活性化およびそれぞれの連携につながることを期待される。

ジオパークに関わる博物館が実施する生涯学習活動の役割は、知識を伝えるだけでなく、地域の活動の活性化を促し、それらを地域間でつないでいくところにもあり、ジオキャラバンはその方策の一つとして有効である。

キーワード: ジオパーク, 山陰海岸, 博物館, アウトリーチ, 生涯学習

Keywords: geopark, San-in Kaigan, museum, outreach, lifelong learning